

令和4年度第4回松山市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時：令和5年2月2日（木）13:30～14:40

場 所：市役所本館 11 階大会議室

出席者：地域包括支援センター運営協議会委員 12 名、各地域包括支援センター、事務局

議 事：（1）地域包括支援センター運営状況について

①令和3年度地域包括支援センターの活動報告（令和4年4月～11月）

②基幹型地域包括支援センターの活動報告（令和4年8月～11月）

③包括的支援事業（社会保障充実分）進捗状況

（2）その他

（1）地域包括支援センター運営状況について

①令和3年度地域包括支援センターの活動報告（令和4年4月～11月）

- 地域包括支援センターへの相談件数は、コロナウイルス感染症に関係なく、毎年1割程度ずつ伸びている。また、孤立化し家族からの支援がなく、問題が発生するたびに何度も相談するケースが増えていることも件数増加の要因と考えられる。
- 生活困窮に関わる相談が前年より減っているが、社会福祉協議会が実施したコロナウイルスに関連する貸付事業のウエイトが高まったことが要因の一つだと感じる。貸付事業の終了で、今後、生活困窮の相談が増えてくると思われる。
- 認知症高齢者の増加に伴い、地域包括支援センターへの認知症相談も増えている。認知症の初期段階にチームで対応する「認知症初期集中支援チーム」の啓発を積極的に行う必要がある。
- 介護サービスについての情報を持たずに相談に来る利用者が7割程度はいる。ケアマネジャーは、なぜこのサービスや事業所を選択するのか、利用者に適切に情報提供する必要がある。

②基幹型地域包括支援センターの活動報告（令和4年8月～11月）

- 基幹型地域包括支援センターの虐待への対応は多い。虐待は統計的に男性が女性に対して行うことが多い。なぜ男性が多いのか、きちんと分析しながら当事者へアプローチしていくことが重要だ。

③包括的支援事業（社会保障充実分）進捗状況

- 認知症初期集中支援チームを活用した場合、その後の支援をシームレスにつなげるため支援者へ適切に情報提供する必要がある。
- 「人生会議」を地域包括支援センターが積極的に PR することで、元気なうちに

「どう生きたいか」考えるきっかけになると思う。

- 身体機能や認知機能が低下した状態で入ってくる相談が増えており、介護予防・生活支援サービス事業のコロナウイルスによる利用控えの影響がみられる。また、「サービスに頼ってはいけない」「自分でやらなければいけない」など考える人も増え、意識変化も感じる。必要な支援を提供することは大切だが、無駄なサービスを抑える考えも必要。コロナウイルスによる利用控えが生活にどう影響しているかきちんと分析しなければならない。

(2) その他

(意見) 特になし